

A-8: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 13:50-15:20 新C403(4階)

URAのための大学職員養成プログラムの役割

大学職員養成プログラムとは、主に大学職員を対象とし、その能力開発を目的とした研修・履修証明プログラム・大学院教育課程等を指す。本セッションでは、大学職員養成プログラムの有用性に着目し、URA養成への応用可能性について検討したい。

URAの前職は多様である。その多くは大学からであるが、公的研究機関や民間企業から採用された者もいる。大学出身者の場合、職員であった者のほか、教育・研究職やポスドクであった者も多い。そのような背景から、URAに期待される役割は、政策担当者のみならず、URA本人にとっても多様であることが想像される。一方で、URAの業務には大学職員と親和性の高い業務も含まれるが、URAは大学職員が有する「大学に関する知識」を獲得する機会が少ないために、一部のURAは業務に苦戦を強いられていると考えられる。

文部科学省中央教育審議会では、平成28年12月の大学教育部会にて、大学の教育研究の高度化・複雑化に伴い、職員が大学運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修の機会を大学等が設けることが規定され、検討が進められてきた。そして、平成29年4月の大学設置基準の改正時にSDが義務化された。この流れは、URA養成にも共有できる部分があると考えられるが、URAの位置付けを示す「第三の職種」という言葉が独り歩きしているために、大学職員との共通性について、これまでほとんど議論されてこなかったと考えられる。現在、URAの質保証に関する議論が活発化している中で、本セッションでの切り口が、その一助になることも期待している。

山本眞一氏からは、高等教育論および大学職員論の立場から、大学職員の専門職へのキャリアパスの選択肢としてのURAとその養成について論じて頂く。山本氏は、桜美林大学大学院アドミニストレーション研究科において、大学職員の能力開発のための講義等を担当し、また筑波大学大学研究センターにおいて、能力開発の啓発活動を行ってこられた。加藤毅氏からは、大学職員養成とURA養成が高度化に向けて共有できるコンテンツについて論じて頂く。加藤氏は筑波大学大学研究センターにおいて、履修証明プログラム「大学マネジメント人材養成」の講義等を担当してこられた。川口潔氏からは、立命館大学大学行政研究・研修センターが実施する「政策立案トレーニング」等で研修委員を務め、日本私立大学連盟アドミニストレーター研修の運営にも携わられたご経験から、大学内における職員養成についてご報告頂く。二階堂知己氏からは、筑波大学の履修証明プログラムを修了された立場から、ご自身のURAとしての業務経験を踏まえ、その有用性についてご報告頂く。

オーガナイザー

松本 理沙:金沢大学 先端科学・社会共創推進機構
博士研究員(URA)



博士(社会福祉学)。日本学術振興会特別研究員(DC2)、同志社大学社会学部社会福祉学科実習助手等を経て、2018年4月より現職。
プレ・アワード、RA協議会事務局業務等を担当している。

講演者

山本 眞一： 筑波大学・広島大学・桜美林大学 名誉教授



博士(教育学)。1972年文部省入省、初等中等教育局、高等教育局、東大事務局、臨教審事務局、米国NSF等に勤務。1992年から筑波大学、広島大学および桜美林大学で、高等教育システムに関する教育・研究に従事、2019年定年退職後現在に至る。専門は、高等教育システム論および大学職員論。元広島大学高等教育研究開発センター長。著書に「質保証時代の高等教育 上・下・続」など。

加藤 毅：筑波大学 大学研究センター 准教授



大学マネジメントに関する研究成果の社会実装の一環として、平成21年度より履修証明プログラム「大学マネジメント人材養成」を開設。現在、「建学の精神」を具現化するためのマネジメント手法の研究開発に取り組んでいます。

川口 潔：学校法人立命館 一貫教育部 担当部長



立命館大学卒業後、大学職員に。理工学部の京都市から滋賀県草津市への拡充移転、大分県別府市での立命館アジア太平洋大学の開学の業務に携わる。国際関係学部事務室、財務部、入学センターなどの職場を歴任。2019年4月より現職。
この間、本学の大学行政研究・研修センターが実施する「政策立案トレーニング」等で研修委員、日本私立大学連盟アドミニストレーター研修の運営にも携わった経験がある。

二階堂 知己：(国研)科学技術振興機構 産学連携展開部 地域イノベーショングループ 副調査役マッチングプランナー



2001年にJSTへ転職。一貫して「研究成果の実用化支援事業」を担当。制度設計、地域駐在として産学官連携促進、現職であるマッチングプランナーとして個別テーマの支援など幅広く経験。特に大学等と密に連携した活動に自信を持っていた。
2013年から2016年に筑波大学へURAとして出向。URAの定着と研究支援活動に悪戦苦闘。大学を全く理解していなかったことに愕然とする。2017年度筑波大学履修証明プログラム「Rcus大学マネジメント人材養成」修了。